GMOペパボ

カンファレンス発表の技術

インターンシップのみなさんこんにちは

柴田博志 / GMO Pepabo, Inc.

2017.09.01 技術部&BPR室テックMTG#4

GMOペパボ



Hiroshi SHIBATA @hsbt

Executive Officer CPO(Chief Productivity Officer)

Director of Business Process Re-engineering Office

https://www.hsbt.org

今日はなすこと

- カンファレンスなどの発表は技術なので勉強して経験を積めば誰でもできるようになります
- 発表の技術については断片的なものが多いので @hsbt の経験をもとに最初から最後までまとめました



今日はなさないこと

- 何故カンファレンスや勉強会で発表するのか
- 良い Call for Proposals(CFP)の具体的な書き方
- Keynote/PowerPoint の便利な使い方



1. 発表のネタ集め

発表ネタの見つけ方

- エンジニアをやってれば毎日発表するネタが一つくらいはできます
- zshrcいじった、openstack で vm 立ち上げた、いいレビューした、不具合直した、OSS のパッチ書いた、機械学習のキーワード一つ勉強した、ログ調査した、puppet 書いた…いくらでもある
- 大事なことは学んだことを文章としてアウトプットすること



学んだことを文章にアウトプットする

- @hsbt は tDiary にどんなことでも毎日書くようにしている
- 別に GHE の issue に記録するでもいい、読まれないとか気にしない
- 1年後の自分が役に立てばいい。世の中で一人くらい読んで「便利」とつぶやいて貰えばいいくらいの気持ちで **”やっていく”**



関連を見つけ出す

- 毎日書いていると、これ前もやったなとか、AとBの話は実はつながっているかもしれない、などと気がつき始める
- 気がつかない場合は意図的に見つけ出そうとしてみる
- ずっと続けることで、自分が経験したトピックの重なりに応じて 15/30/60/120min は話せるようになる(雑談レベルでいい)



2. カンファレンスを探す

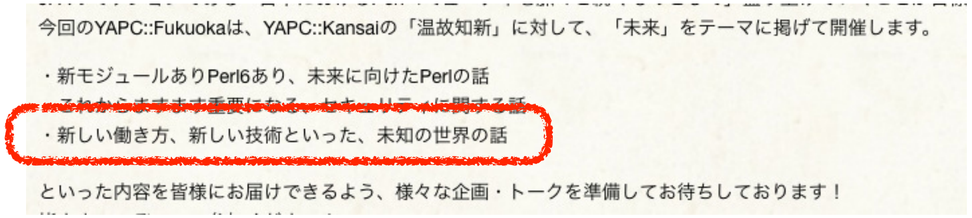
発表に適したカンファレンスを探す

- RubyKaigi, RubyConf, Euruko, builderscon, YAPC, phpcon, iOSDC, DroidKaigi, 社内 TechTalk, 社内の突然の集まり, etc, etc…
- それぞれのカンファレンスにはテーマというものがあるので、テーマに一番適してそうな持ちネタを CFP として投入する(重要)
- 参加者の層、開催時点の技術動向、開催地なども考慮する
- 基本的な書き方は RubyKaigi2011 CFP虎の巻などを見よう

http://rubykaigi.tdiary.net/20110308.html



YAPC::Fukuoka の例

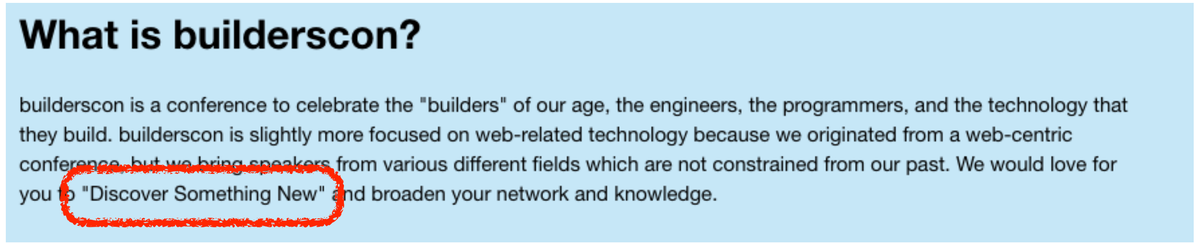

今回のYAPC::Fukuokaは、YAPC::Kansaiの「温故知新」に対して、「未来」をテーマに掲げて開催します。

・新モジュールありPerl6あり、未来に向けたPerlの話
・それからますます重要になる、セキュリティに関する話
・新しい働き方、新しい技術といった、未知の世界の話

といった内容を皆様にお届けできるよう、様々な企画・トークを準備してお待ちしております！

- 「新しい働き方、新しい技術といった、未知の世界の話」
- それなら社員全員が GHE でバーンとやってる話は適しているだろうと思い「Productive Development Organization」というタイトルで出した。
- 通った

builderscon の例



- 「知らなかった、を聞く」
- そういうことなら、Ruby のライブラリの面倒をたくさん見ている自分が「OSS の引き継ぎ方」という話をしよう。他の人はできないはずだ。
- 通った



CFP を出すときに重要なこと二つ

- その話がなくなったら発表全部が意味不明となる、発表の核は何か
- 発表が終わった後に聴衆に伝えたいこと/行動させたいことは何か



3. スライド作成

Keynote/PowerPoint をまず閉じる

- 最初に起承転結、状況設定-葛藤-解決のようなストーリーを考えましょう
- 考え方は色々、付箋にトピックを改めて文字起こしして並べたり、メモに書き出したり、ホワイトボードで mindmap 書いたりする
- @hsbt はノートにトピックを書き続けるというのをやってます



カンファレンスの会場と設備を確認する

- まだスライドは作成しない
- カンファレンスのプロジェクタ設備によっては解像度が 1024x800 と小さかったりするので、解像度とアスペクト比を必ず確認する
- 16:9 で完璧な資料を作っていったら 4:3 になってビヨーンとしてしまって凹んだことがある
- 奥行きがある会場の場合、こんなもんだろうというサイズよりもさらに文字を大きくする



スライド作成

- ストーリーができたらストーリーをプレゼン資料に落としていきます
- ペパボの場合、プレゼンテンプレートをデザイナの有志が作ってくれたので使うと便利
- フォントも重要、@hsbt が好きなのは日本語ならヒラギノ、英語なら **Helvetica Neue Condensed Bold**
- 自分にあったテンプレート、フォント、カラーパレットを育てておくと作るスピードが上がる



4. 発表前にやること

発表者ノートを書こう

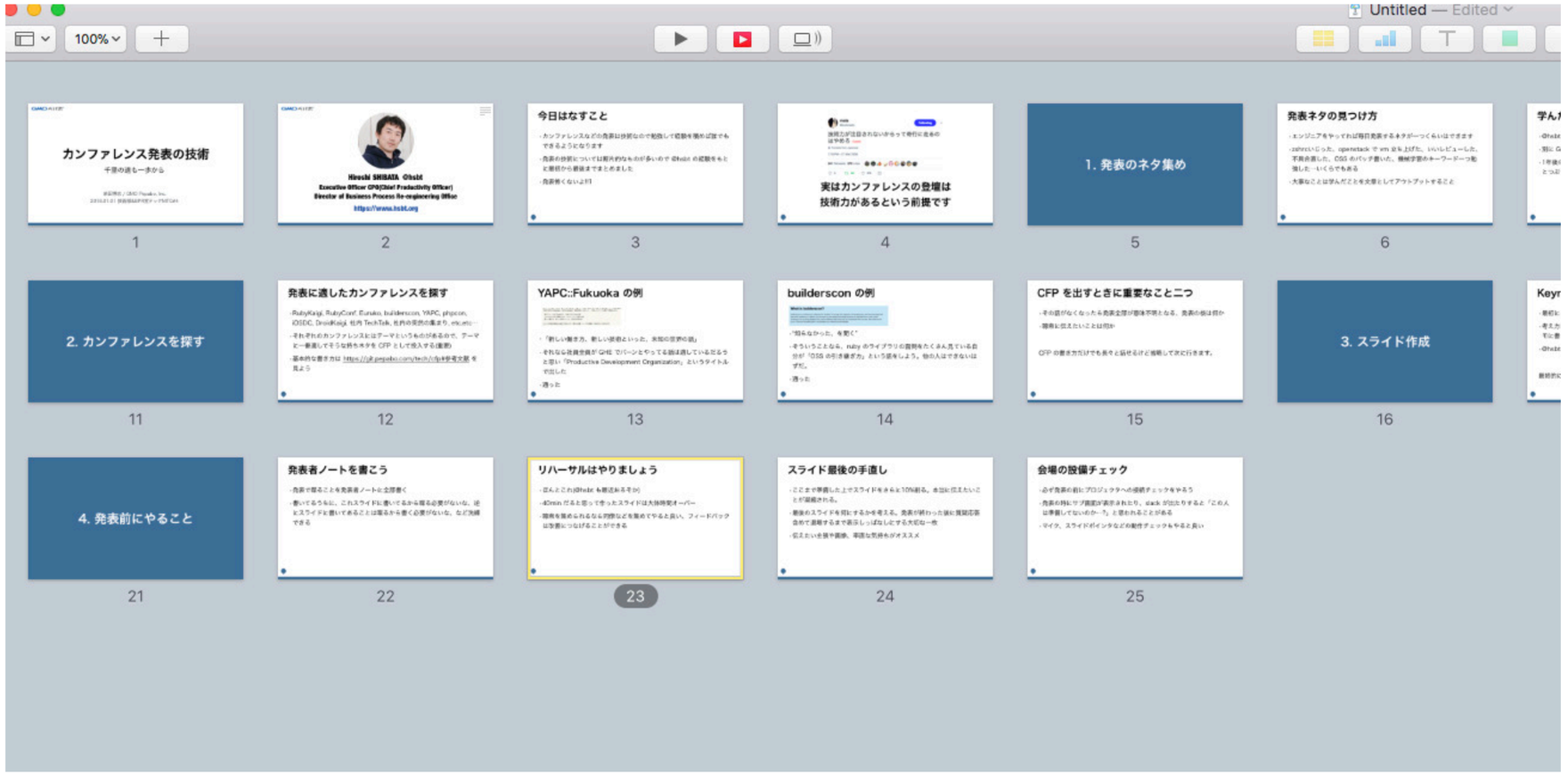
- 発表で喋ることを発表者ノートに全部書く
- 書いてるうちに、これスライドに書いてるから喋る必要がないな、逆にスライドに書いてあることは喋るから書く必要がないな、など洗練できる



リハーサルはやりましょう

- ほんとこれ(@hsbt も最近おろそか)
- 40min だろと思って作ったスライドは大体時間オーバー
- 聴衆を集められるなら同僚などを集めてやると良い、フィードバックは改善につなげることができる





LightTable を使って
スライド全体の構成を俯瞰する

スライド最後の手直し

- ここまで準備した上でスライドをさらに10%削る。本当に伝えたいことが凝縮される
- 最後のスライドを何にするかを考える。発表が終わった後に質疑応答含めて退場するまで表示しっぱなしにする大切な一枚
- 伝えたい主張や画像、率直な気持ちがオススメ

5. さあ発表だ

会場の設備チェック

- 必ず発表の前にプロジェクタへの接続チェックをやろう
- 発表の時にサブ画面が表示されたり、slack が出たりすると「この人は準備してないのか…?」と思われることがある
- マイク、スライドポインタなどの動作チェックもやると良い



スライドじゃなくて前を向く

・スライドポインタがあるなら自分のマシンを少し距離あるところに置くとマシンを見ながら聴衆を見ることができる

・会場で数人順番に見る人を決めて、その人に向かって話すようにする



ここまできたら後は勢い!!1

発表が終わったら

- 自分の話を伝えたかった人に廊下などで話しかけて感想を聞く
- 最近だと Twitter で質問を書いている人もいるのでせっせと返事すると新しい輪を広げられて良い
- 話そうと思っていたけど話せなかったことなどあったら、フォローアップブログを書く



まとめ

今日話したこと

- カンファレンスなどの発表は技術なので勉強して経験を積めば誰でもできるようになります
- 発表の技術については断片的なものが多いので @hsbt の経験をもとに最初から最後までまとめました
- これだけやっても @hsbt の今年の発表(3回)は「うーむ」という自己評価なので何度も何度も登壇して上手くなるしかない

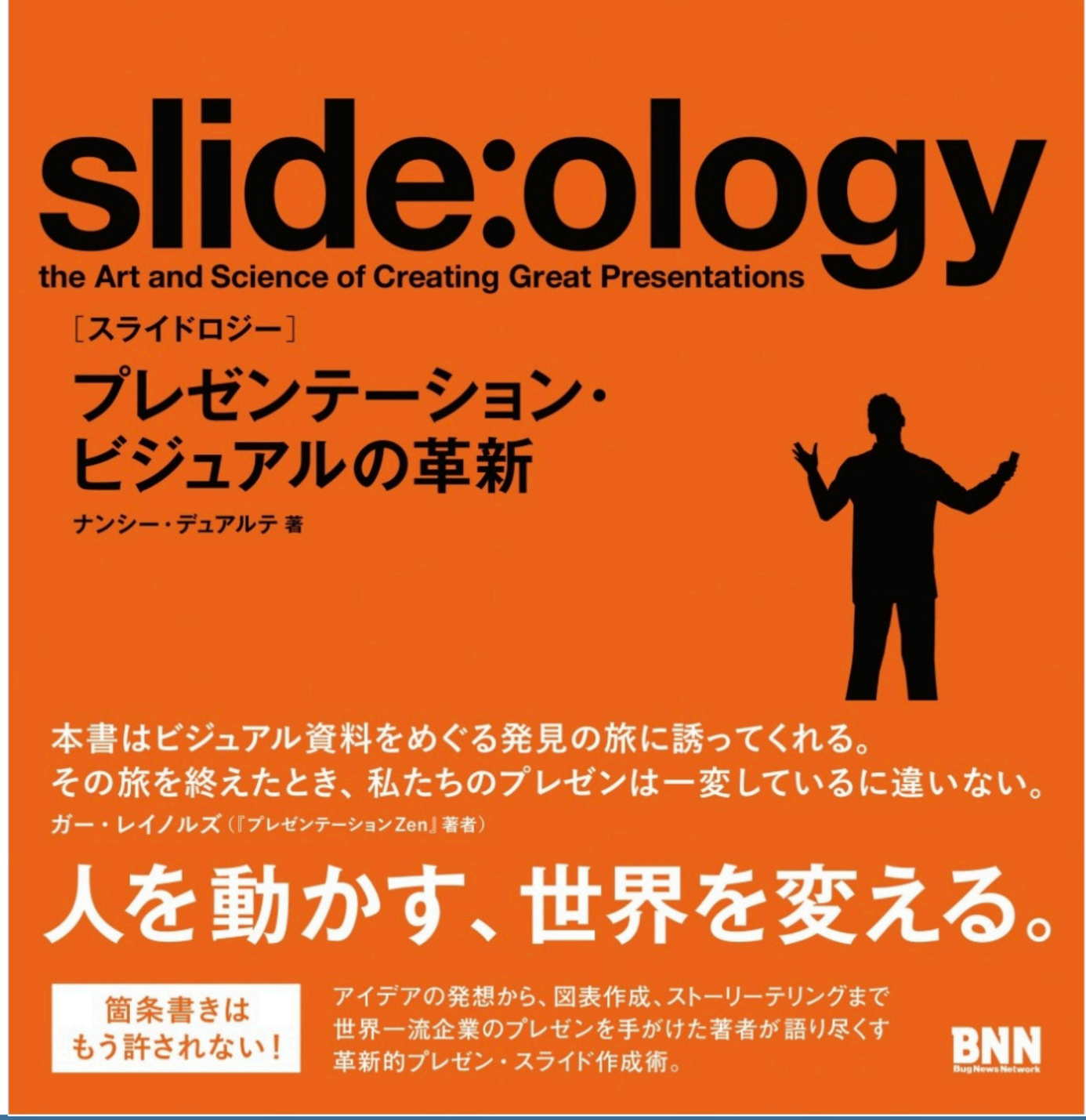


おまけ: オススメの参考文献

slide:ology

- スライドの作り方にフォーカスした本
- 今日話したことが大体書いてある
- 広義のデザインとして優れたスライドの作り方を学ぶのにオススメ

https://www.amazon.co.jp/dp/4861009448/



プレゼンテーション zen

- スライドロジー同様に発表について一通り書いてある
- デザインについてはやや抑えめ
- “高橋メソッド”が掲載されて話題になった

https://www.amazon.co.jp/dp/462106603X/



プレゼンテーション zen デザイン

- zen の続編
- デザインについて色々書いてある
- 余力があればおすすめ

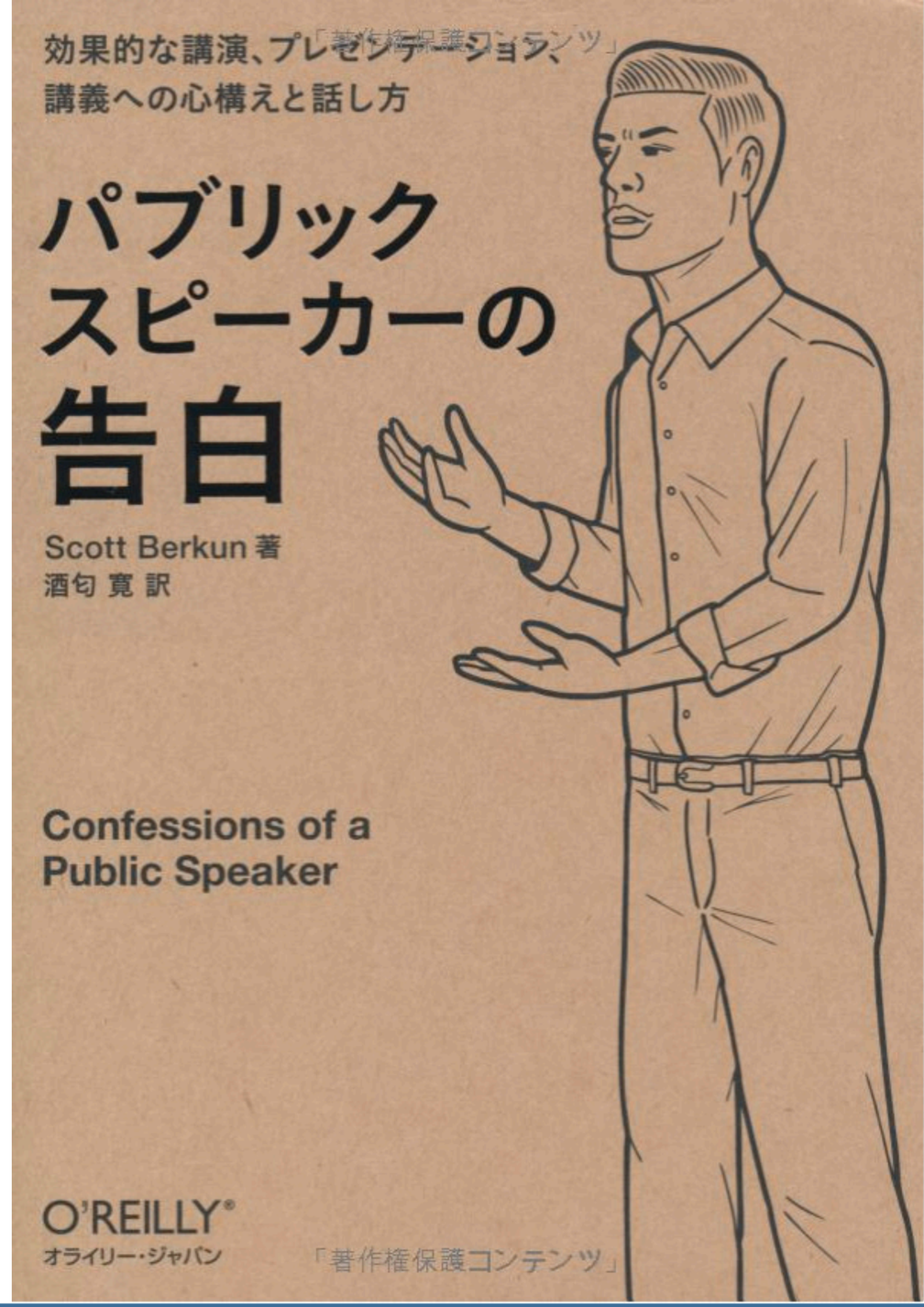
https://www.amazon.co.jp/dp/4621066013/



パブリックスピーカーの告白

- 発表の心構え中心の本、みんな「この本は良い」と言っていた
- @hsbt が最初に読んだときは「なるほど」以上の感想はなかった…
- もう一度読み直してみます

https://www.amazon.co.jp/dp/487311473X/





https://twitter.com/bulkneets/status/777895021

奇行じゃなくて技術力で注目されて行くぞ!!1